



松浦ガバナーの船出をお祝いして

国際ロータリー2510地区

直前ガバナー

石丸 修太郎

(札幌西 RC)

私の後の当地区のガバナーを務めて頂く松浦光紀さんは、心優しく、多方面での才能に秀でていらっしゃる方です。スポーツも音楽もこよなく愛し、多くの皆様との交流を楽しまれる社交家でもあります。

40代で2780地区の三浦RCに入会され、その後会社を退職されたのを機に小樽に移って来られ2006年に小樽南 RC に入会されました。その後クラブで色々な奉仕活動に携わり、地区の委員も様々務められた経歴を持ち、RLIのディスカッションリーダーも務めているという活動家です。

ダンディーな出で立ちはお本人のセンスの良さを伺わせるものですが、体型も含め私には絶対に真似の出来ないことです。

松浦ガバナー年度の国際ロータリーのテーマが「世界に希望を生み出そう」ということで、世界的には平和への切望になると思いますが、地区を見ますとやはり若い世代が将来に夢を持てるような社会の形成が求められるのだと思います。

松浦ガバナーはインターアクトやRYLAにも興味があり、新入会員セミナーにおいても、じっくりと参加者の動向を見ておられ、温かなムードを醸し出していました。地区のテーマを「地域社会に希望を育てよう！」とした優しさが表れています。

また、今年の2月に倶知安RCがホストとなって、国際ロータリー・スキー同好会のスキーウィークが倶知安町を中心に開催され、海外からロータリアンとその家族26名が来られた際に、松浦ガバナーが小樽での観光やフェアウェルパーティーに参加され交流を深めている姿は、とても温厚でかつ社交的で地区のおもてなしの一役を十分に果たして頂きました。

ロータリーという組織において、会員の一人一人がその活動を楽しみかつ人生の糧を広げることがで

きるのも、まずは親睦でありそれを具現化しているのが松浦ガバナーであります。地区のリーダーとしては、何事にもとてもソフトなアプローチで関わっている方々の意見を十分に組み上げて、総意を重んずるタイプだとお見受けしております。

親睦と奉仕というロータリーの命題をバランス良く会員の皆様に説いて回られるのだと思いますが、一つだけ気になることがあります。というのも、食の細さです。

自分と比べてはいけないと思いつつも、独り身の生活でガバナーの多忙な時間を乗り切る体力を備えて頂くことを切に望んでいます。そして来年、この記事を楽しんで書いているのが松浦ガバナーです。ガバナーとして目標は、沢山は要らないと思いますが、大きなものを抱いてガバナー・ライフを十分に堪能して頂けることをお祈りして、船出のお祝いの言葉とします。